

## 式辞

刈和野の大綱引きから20日程が経ち、ここ北ノ沢嶋山の丘にも春の訪れの近いことが感じられる季節となりました。本日、秋田県教育委員会教育長 米田進 様、本校後援会会長 小松隆明 様をはじめ、多数のご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、平成29年度秋田県立西仙北高等学校卒業証書授与式を挙行できますことに心より感謝申し上げます。

ただいま卒業証書を授与しました69名の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業にあたり、皆さんは西仙北高校でのさまざまな出来事を思い浮かべていることと思います。勉強のこと、部活動のこと、生徒会活動や学校行事のこと、そして友だちとのことなど懐かしく思い出されるのではないのでしょうか。それは楽しいことばかりではなく、悲しいことや苦しいこと、そして思い悩んだことなどもあると思います。それらひとつひとつが皆さんをたくましく成長させてくれたものと思います。本校で経験したすべてのことを自らの糧として、高校卒業という今日の日を迎えた皆さん一人一人の努力は大きな賞賛に値するものです。

さて、卒業する皆さんにお願いがあります。それは「何事にも積極的に挑戦すること」、「一人一人がかけがえのない存在であること」の2つを心に留め、これからの人生を生きてほしいということです。

まず、「何事にも積極的に挑戦すること」についてです。人工知能や情報技術などの進歩は私たちの生活を大きく変えるでしょう。いっぽう、日本においては少子高齢化の進行などの課題を、国際社会においては国家間の不安定な関係などの課題を抱えています。このようなことから21世紀は予測困難な時代であるともいわれます。皆さんはその21世紀を生きていくのです。そうであるからこそ、何事にも積極的に挑戦してほしいのです。2年前に行われた本校創立50周年記念式典後の講演会で、講師である作家の西木正明さんは「失敗を恐れることなく、何事にも挑戦するように！」と皆さんに熱く語りかけてくれました。そのときに西木さんから書いていただいた「失敗を楽しもう!!」の色紙が校長室にあります。何事にも積極的に挑戦し、たとえ失敗したとしても、何度でも挑戦することを繰り返す、そんな人になってください。

次に、「一人一人がかけがえのない存在であること」についてです。一人一人とはこの

世界に生きているすべての人のことです。それはあなた自身のことであり、あなたの家族や友人たちのことです。あなたの周りにいる人たち一人一人が唯一の存在であり、あなたは那些人たちの良さを発見することができ、そして大切にすることができる人になってください。

ところで、皆さんは自分自身がかけがえのない存在であるということを実際に考えたことがあるでしょうか。自分の周りにいる人たちがかけがえのない存在であるように、自分自身もまたかけがえのない存在なのです。そのことを自覚し、そのことに誇りと責任を持ってください。そうすることによって、人としてしっかりと生きていかなければならないという思いが強く湧いてくるだろうと思います。自分も自分の周りの人もかけがえのない存在であることを自覚し、自らはよりよく生きることを強く思い、行動する、そんな人になってください。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。この卒業を最も喜んでおられるのは保護者の皆様であり、ご家族の皆様であると思います。卒業式でのお子様の姿に感慨もひとしおのことと思います。高校時代は自立を目指して心の中で葛藤を繰り返すなど悩み多き時期でもあります。そのようなお子様をときに厳しく、ときに温かく見守り、導いてこられましたことに深く敬意を表します。また、これまで本校の教育活動に対し、ご理解とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

本日ご出席いただきましたご来賓の皆様、日頃からの本校へのご支援、ご協力、誠にありがとうございます。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

卒業生の皆さん、理想を高くかけ、自らの道を切り開いてください。社会の発展には皆さんのような若い人たちの力が欠かせません。ふるさと秋田が皆さんの持っている力を必要とし、それに期待しているのです。さらには日本や世界も同じように若い力を必要とし、期待しているのです。西仙北高校の卒業生としての誇りを胸に21世紀をたくましく生き、社会に貢献する人間となってください。皆さんが大きく飛躍することを願うとともに、一人一人の健康と活躍を心から祈念し、式辞といたします。

平成30年3月1日

秋田県立西仙北高等学校長

小松照夫